



大砂土小だより

学校教育目標「自ら学び、考えて行動する児童の育成」
～ 認め合い・学び合い・共に育つ ～

<目指す児童像>

豊かなコミュニケーションの下で、

かしこい子 (知) 明るい子 (徳) たくましい子 (体)

TEL 663-7005

FAX 663-9886

大砂土小学校 ホームページ <http://osato-esaitama-city.ed.jp/>

メールアドレス osato-e@saitama-city.ed.jp

令和6年5月31日 第3号

「非認知能力」の醸成 ～子ども達の成長～

校長 新堀 栄

6月「水無月」は、水の月。牡丹やツツジの花々も終わりを告げ、「次は私の出番だよ」と、紫陽花（アジサイ）の花が色づき始めました。梅雨入りも、もう間近でしょうか。梅雨の時期なのに「水無月」とは…。旧暦の6月が、梅雨が明ける時期と重なるため、「水の無い月」とする説があるそうです。

さて今月は、5年生が館岩で2泊3日の「自然の教室」を実施しました。3日ともすべて晴天、発熱した児童もおらず、パーフェクトな自然の教室でした。実施まで、ご家庭の健康管理に感謝申し上げます。3日間の主な活動は、「キャンプファイヤー、登山、川魚さばき、焼き板作り、ナイトハイク、星空観察」です。さいたま市では味わえない貴重な体験活動の数々でした。活動の詳細につきましては、お伝えしたいことが山のようではありますが、都度5年生の保護者の皆様に「館岩通信」として安心メールを送らせていただきました。

今号の話題は、体験活動で培われる「非認知能力」についてです。様々な定義がありますが、「認知能力」とは、学力検査で測定できる「学力」や知能検査で測定できる「知能」を示しています。一方で、「非認知能力」とは、知能検査や学力検査では測定できない能力であり、目に見えにくい人の心や社会性に関係する力です。例えば、やる気、忍耐力、協調性、自制心などを表します。本校児童の自然の教室前後における「非認知能力」に関する調査結果*の一端を記します。

【3ポイント以上向上した質問項目と能力:伸び率順】

- うまくいかなくてもあきらめずに挑戦している←やりぬく力
- 人から言われなくても自分から進んで行動している←主体性
- 自分と違う意見や考えでも受け入れることができる←協調性
- 自然の中で「なぜ、どうして」と不思議に思うことがある←自然への興味・関心
- 初めてのことで進んで取り組んでいる←チャレンジ精神

自然の教室では家庭から離れ、大自然の中で初めて友達と集団宿泊活動及び体験活動を実施しましたので、どの項目の伸長も頷けます。『館岩で3日過ごせば、子どもは変わる』という言葉がありますが、3日目の退所式に見た、自信に溢れ一回りも二回りも大きく見えた子ども達の姿には感動しました。ちなみに、3ポイント以上減少した項目には、「借りた物は大切に使っている」や「自分なりに目標をもって活動している」がありました。これらは、自分の物ではなく、使いまわしている共有物（道具）を使っているという意識があったこと、初めて経験する活動を必死にこなすことに精一杯で、目標を立てることが難しかったのではないかと分析します。

自然の教室を通して、子ども達の「非認知能力」の伸びが見られましたが、今後も学校生活やご家庭において、たくさんの体験活動を積み重ねることが、今後の子ども達の人生に大きな影響を与えることと考えます。

また、来月は「いじめ撲滅強化月間」です。昨年度の本校のいじめ件数は25件で、現時点ですべて解消しています。来週の講話朝会では、下の「相田みつを」さんの詩を紹介するとともに、「いじめ防止対策推進法」についても簡単に触れるつもりです。詩のように、人の心の中に“優しさ”が生まれてくると、いじめは起こらなくなります。ぜひ、ご家庭でも話題にいただければ幸いです。

【セトモノ】

セトモノとセトモノと ぶつかりっこすると すぐこわれちゃう
どっちか やわらかければ だいじょうぶ
やわらかいところを もちましよう
そういうわたしは いつもセトモノ

*現在、子ども達の5年後10年後を見据え、「非認知能力」の質問項目や分析方法について、校長が国立青少年教育振興機構及び館岩少年自然の家との共同研究を行っているものです。便宜上、その項目の意味を表すと思われる資質・能力の名称をつけて表現しています。統計的な分析など明確な基準に基づきみているわけではなく、あくまで割合の変化から結果を示していることを申し添えます。